2017.1.25

Fukuoka D.C.

News Letter 2016

ー福岡地域戦略推進協議会　2016 年度活動報告ー

【Topics】

1. 部会の取り組みと成果・・・・・　2P
2. プロジェクト・・・・・・・・・・　8P
3. コンソーシアム組成支援・・・・　10P
4. 国家戦略特区に関して・・・・・　10P
5. 海外トピックス・・・・・・・・・　11P
6. ＦＤＣサロン・・・・・・・・・・　13P
7. 協力・後援事業・・・・・・・・・　15P
8. 事務局トピックス・・・・・・・・　17P
9. メディア紹介
　事務局長登壇実績・・・・・・・・　18P
10. 視察受け入れ一覧・・・・・・・　19P
【特集】事務局長年頭所感 ・・・・・ 21P

福岡地域戦略推進協議会(FDC)は、2014年から中期フェーズ(ビジネスの開発)に移行し、地域戦略の策定と推進により、産学官民プラットフォームの強化と公共政策との連動、地域戦略に資する事業化の目処を立ててまいりました。

2016年度は4月の総会をはじめ、3回の幹事会、9回の幹事会ワーキング、また各部会・分科会等もそれぞれ開催され、多くの個別プロジェクトや事業コンソーシアムの組成もあり、大変活発な活動となりました。これらの中で主な活動をニュースレターとしてまとめましたので、ぜひご覧ください。

1. 部会の取り組みと成果

観光部会

Meeting Place Fukuoka の成果

MICE（国際会議や展示会等）誘致体制の強化を図るため、福岡都市圏の成長に向けた「MICE戦略の概要」と「MICE推進体制のあり方」並びに「MICE施設整備についての考え方」を策定。その一つの成果として、2013年6月に観光庁の「グローバルMICE戦略都市」に福岡市が東京都、横浜市、京都市、神戸市とともに全国5都市の一つとして選定されるとともに、2014年4月に「Meeting Place Fukuoka」を立ち上げるに至りました。2014年度からは「Meeting Place Fukuoka」の支援に加え、戦略的誘致対象催事の誘致体制、ビジネスコーディネート機能の構築、福岡都市圏一体のMICE受入体制の構築、アフターコンベンションモデルの作成を行うプロジェクトを推進しています。

2016年9月30日に日本政府観光局(JNTO)が公表した2015年の「日本の国際会議開催件数」によると、2015年国際会議の開催件数は、日本全体で2,847件、うち福岡市における国際会議の開催件数は363件で7年連続全国第2位となりました。

Meeting Place Fukuoka

サイトビジットツアー

MICE誘致によって拡大する観光需要を福岡都市圏全体に波及させるべく、サイトビジットツアーのモデルプラン検討を行いました。

その一つとして、2016年6月24日から28日にかけて福岡市で開催された「第99回ライオンズクラブ国際大会福岡2016」の参加者を対象に「Munakata One Day Tour(宗像ワンデーツアー)」を2016年6月27日に企画・実施しました。このツアーにインドからの大会参加者36名が申し込み、2017年世界文化遺産候補の宗像大社や沖ノ島遺産を見学。宗像名産の活魚料理や和装体験などを通じて、宗像の魅力(ブランド)を体験してもらいました。今回のツアーを検証し、MICEの経済波及効果を福岡都市圏に拡げていきます。

CEDEC＋KYUSHU 2016

2016年10月22日に九州大学大橋キャンパスで「CEDEC+KYUSHU 2016」が開催されました。CEDECとはコンピュータエンターテインメント

開発者カンファレンスのことで、九州・福岡のゲームソフト制作関連会社等で構成する実行委員会主催で2015年から福岡市で開催されています。

観光部会では、このカンファレンスを九州・福岡のゲーム・コンテンツ産業を振興する機会と捉え、ゲーム産業と親和性の高いVR(ヴァーチャルリアリティ)をテーマに、パネルディスカッションとVR体験コーナーを企画提供しました。

シンポジウム会場には138名が参加し、立ち見が出るほどの盛況でした。また体験コーナーでは観光やプロダクトデザインの現場で実用化されているVR機器を実際に体験してもらいました。

MICE活用方策シンポジウム

2016年6月「第99回ライオンズクラブ国際大会福岡2016」が開催され、国内外から約37,000人の方々が来福されたことを機に、福岡市内のホテル、飲食、小売事業者などでは様々な取り組みが行われました。観光部会ではホテル、飲食、小売事業者の取り組みを調査し、その検証結果を報告する「MICE活用方策シンポジウム～ライオンズクラブ国際大会で得たノウハウを今後のビジネス拡大に活かすには～」を2016年10月25日に開催しました。

パネルディスカッションでは特徴的な取り組みを行ったホテル、飲食、小売事業者に登壇いただき、成功店がライオンズ国際大会の準備や接客を通じて得た気づきやノウハウを話してもらいました。今後、福岡市で開催される「ラグビーワールドカップ」(2019年)や「世界水泳選手権大会」(2021年)などの機会で活かしていくことを参加者とともに確認しました。

スマートシティ部会

スマートシティセミナー富山市の都市政策を学ぶ

2016年4月14日に、スマートシティセミナー「富山市の都市政策を学ぶ」を開催しました。
富山市は、OECD(経済開発協力機構)がまとめた「コンパクトシティ政策報告書」においてパリやポートランドなどと並び「先進的取り組み5都市」として取り上げられるなど、世界的に高い評価を得ています。

第１部は「富山市のLRTを中心とした公共交通活性化に向けた取り組み」をテーマに、富山市都市整備部路面電車推進課企画係係長吉川賢一氏のご講演、第２部は、富山市広報課浅野哲平氏に「シティプロモーションからシビックプライドへ～質の高いライフスタイルを市民が実感できる都市へ～」をテーマにご講演いただきました。

フードエキスポ九州 2016 公式アプリ

グローバルシティ・ビジネス分科会では、ビーコンを活用したビジネス創出を目的に、2016年10月に天神中央公園で開催されたフードエキスポ九州2016「九州うまいもの大食堂」にて、社会実験を実施しました。

ビーコンとスマートフォンアプリを用いて来場客の滞留状況、人流状況を分析し、来場客の動向を把握する手法の有効性を検証し、4日間の開催期間中のビーコン検知件数は46,271件となりました。

この実証実験を通じて、①特定エリア内における来場者の滞留や人流把握を見える化することができ、実態を表すデータとなっているか、②滞留や人流把握により、対象のイベントなどの課題の明確化や改善に繋げることが出来るか、③アンケートと人流を結び付けることでサンプリング調査に活用できるか(特定の趣味・趣向や意見を持った方の行動を把握することができるか)などを検証しました。

今後、福岡のショッピングエリアやショッピングモールでの行動パターン分析等につなげていきたいと考えています。

九州大学伊都キャンパスにおける画像分析実証実験

スマートモビリティ分科会では、2017年1月に九州大学伊都キャンパスにおいて、画像データを活用した人流分析の実証実験を行いました。同キャンパス内に設置されているP-Sen内のネットワークカメラを用いた産学連携の取り組みです。今回は対象エリア内の人流、滞留状況の把握、不審行動の検知、施設の利用状況の把握などについて検討を行い、社会実装に向けた技術面、運用面、制度面での課題の抽出を行います。

街に存在する様々なセンサ情報の活用に、社会的な期待が高まっている中、多様なセンサデータを用いたサービスの事業化に向けて取り組みを進めていきます。

食部会

フードエキスポ九州 2016

FDCが主催団体の一員となる「フードエキスポ九州2016」が2016年10月4日～10日に開催されました。今年で3回目を迎えるフードエキスポ九州は、世界的にも優れた高付加価値の九州産農林水産物、加工食品を国内外に発信し、地場食

品関連企業の更なる売上向上、販路拡大及び地域経済の振興を目的に開催されました。

福岡県、福岡市、福岡県商工会連合会、ジェトロ福岡、FDC、福岡商工会議所で構成する「Food EXPO Kyushu 実行委員会」が主体となり、BtoB事業（国内外食品商談会）と BtoC 事業（九州うまいもの大食堂）を実施。10 月 4 日の開会式は事務局長の石丸もテープカットに参加しました。

（仮称）福岡版 ONE コンテナプロジェクト

食部会では、九州・福岡の食産業発展のために、生産者及び食産業に関わる中小業者の振興、海外マーケットの開拓に取り組んでいます。

国内の食市場が収縮する中で、アジアを中心に世界の食市場は拡大。そして、安全な日本の農林水産物は高い評価を受けています。食品の輸出は福岡・九州の農林水産物・食品の販路拡大につながる重要な手段となり、海外のニーズに合った高品質な日本産品を多く輸出できるようになれば、食品関係事業者の所得向上も期待出来ます。

そこでFDC食部会では、九州の食産業の振興に向けて、新たな販路開拓に加えて、博多港の活用とコンテナ便での混載輸出の可能性を探る「（仮称）福岡版ONEコンテナプロジェクト」を推進。2016年度は台湾とシンガポールを対象として調査及び実証実験を進めています。

人材部会

It'sエイゴTIME

2015年度より国際的なビジネス・活動に関わる市民の増加を目指した市民の英語能力発揮プロジェクト「It's エイゴTIME」。2016年は「Cinema（５回開催、計79名参加）」「Cooking（5回開催、計52名参加）」「街あるき（3回開催、計67名参加）」の３つのプログラムで全10回の実証講座を開催しました。１年間の活動により、「It'sエイゴTIME」の登録メンバーは、571名（女性が約8割、2016年9月時点）となり、その中から2016年6月の「第99回ライオンズクラブ国際大会2016福岡」語学ボランティアやシンポジウムの参加なども実現しました。

留学生プロジェクト

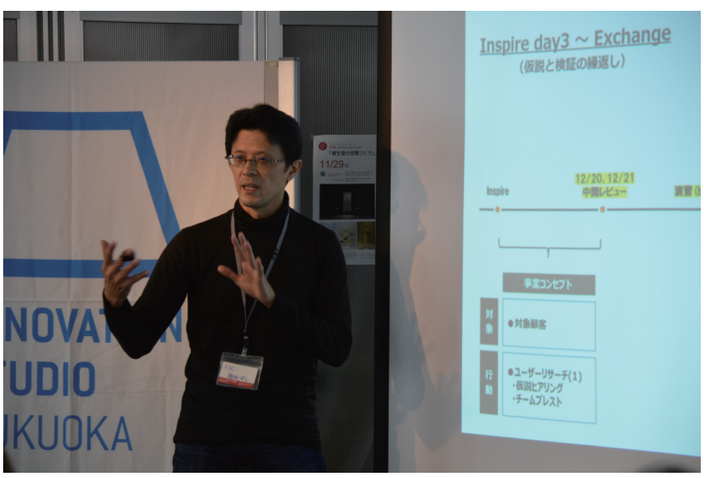
国際的人材の定着化を目的に、留学生のショートスティ受入れプログラム開発支援を行っています。パイロット事業として、2017年1月に九州大学が実施する韓国からの22名の留学生の受け入れ機会に合わせ、福岡におけるショートステイ事業における課題を抽出するアンケートを実施。パイロット事業の成果を踏まえて、独自のプロジェクトとして自立していきます。

イノベーションスタジオ福岡 プロジェクト４

「社会や地域の課題を、事業づくりを通して解決する」市民による市民のためのイノベーション創出プログラム、イノベーションスタジオ福岡。2016年度は「防災」や「災害復興」を目

的として「災害を乗り越えるイノベーション」をテーマに掲げました。

2016年9月から始まったプロジェクト4は、約30名の様々なバックグランドを持つ市民が参加。「Uncover」「Inspire」と呼ばれる2つのワークショップを経て、2017年1月28日に「Exchange(最終報告会)」を実施します。「Exchange」ではリサーチ&フィールドワークやプロトタイプ&テストを学んできた参加者が、事業化に向けたビジネスプランの発表を行います。



イノベーションスタジオ福岡 プロジェクト商店街

福岡市内約150ヶ所に広がる商店街。日々、それぞれの商店街で街の魅力を高める活動が展開されていますが、商店街によっては、やる気はあっても人手やアイデア・資金などが不足し、単独での活動に限界を感じるケースもあります。

そこで、そのような商店街とイノベーションスタジオ福岡が連携して、外部から活性化に向けた新たなアイデアや、活性化に共に取り組むパートナーを得て、商店街にイノベーションを起こすための新たな取り組みを実施しています。

市民目線で発見した課題に対して、商店街と市民でプロジェクトチームを結成し、それぞれのチームが当事者意識を持って商店街活性化のための事業アイデアをつくります。魅力的なビジネスプランには、実際に商店街をフィールドとして、サービス試行に取り組んでいただきます。※本事業は、福岡市商店街活性化パートナー発掘事業として実施されています。

都市再生部会

水辺で乾杯2016

2016年7月7日に、ミズベリング分科会にて「水辺で乾杯2016」に参加しました。これは水辺活性化への意識の醸成を図るため、国土交通省ミズベリング事務局が、昨年度より社会実験として実施しているイベントで、午後7時7分に全国・世界の水辺にて一斉に乾杯するものです。また、同時刻に全国397ヶ所で乾杯がありました。

the MIZBECK gardenザ・ミズベックガーデン

2016年7月16、17日の2日間、天神中央公園・那珂川流域等にて、「the MIZBECK garden」が開催され、ミズベリング分科会が協力という立場で参加しました。17日のメインイベントである「全日本SUP選手権大会九州予選」では橋田部会長が

名誉実行委員長として挨拶およびスターターを行いました。大会にはプロから一般選手まで総勢72名が参加し、レースは大変盛り上がりました。

MIPIM JAPAN-ASIA PACIFIC2016

MIPIMとは、1990年からフランス・カンヌで毎年3月に開催されているリードミデム社による国際的な不動産イベントであり、地域開発・不動産投資に関する地方自治体、企業、投資家等が一堂に会し、契約等の商談、大規模開発の情報収集、新規マーケットの発掘等を行う世界最大級の見本市です。

また、主にアジアの投資家を対象としたMIPIM ASIAが2006年から香港で毎年11月に開催されており、日本では2015年5月よりMIPIM JAPANとしての東京開催に続き、今年は大阪にて2016年9月8日、9日の2日間開催されました。FDCでは2015年に続き、シティプロモーションを目的に福岡市のブース出展およびプレゼンの支援を行いました。イベント全体の参加者は2日間で2,417名(うち海外231名)、25ヶ国の結果となりました。

水上公園がリニューアルオープン

2016年7月15日に「水上公園」がリニューアルオープンしました。

FDCでは2014年度の都市再生部会「水辺活性化プロジェクト」において、福岡市と民間企業が効果的に連携して、民間活力の投入による公的負担の軽減、民間提案による質の高いまちづくりを行うため「福岡市水上公園活用方策に関する民間発案」を行いました。その結果、福岡市は水上公園を、都心部の水辺空間を活用した賑わい・憩い空間の拠点として整備することとし、「高質な建築物などによる休養機能の向上」や「賑わいの創出」、「シンボリックな景観の形成」、「その他利用者サービスの向上」を図るため、民間活力を導入することとしました。民間活力の導入に際し、整備・運営を担う民間事業者を公募し、今回の事業者決定に至ったものです。本事業は福岡市が実施する「天神ビックバン」のプロジェクト一つに位置付けられ、ひと・モノ・ことが交流する新たな空間の創出につながるプロジェクトになります。

この他、FDCでは「ミズベリング分科会」を設置し、水上公園をはじめとするリバーフロントの活性化や水質の浄化などに向けて取り組みを進めています。本分科会は、市民の方々も参画して取り組みができるプロジェクトにして行きたいと考えています。

都心循環BRT形成に向けた試行運行の開始

福岡市と西日本鉄道では、2016年8月8日より、都心循環BRT形成に向けた試行運行を開始しました。試行運行開始当初は、天神地区、博多地区それぞれとウォーターフロント地区を結ぶ2ルートでの運行でしたが、10月25日から循環ルートでの運行を行っています。今後は、都心の都市開発とあわせて本格的なBRT導入に向け段階的に整備が進むことが期待されます。

本施策は「天神ビックバン」を支えるプロジェクトとして、都心周辺部に駐車場をあわせて整備し、自動車を過度に都心に入れずに、公共交通ネットワークで効率良く繋ぐこととしています。

都心３拠点の整備については、都市再生部会にて2012年度に策定した「都心再生戦略」で、「天神・渡辺通」「博多周辺」「ウォーターフロント」の段階的な整備の方向性について整理し、2013年度にはそれぞれの拠点ごとの分科会を設置し、具体化に向けて検討してきました。

また、並行して都心３拠点を結ぶ「都心公共交通軸の形成（交通戦略）」について、将来の開発に伴う交通需要、導入コスト、一定水準の輸送力、速達定時性、明瞭性、シンボル性を有しつつ、段階的に整備可能で、当面は日別の運航頻度も相対的に柔軟に提供できる「BRT」の導入を取りまとめています。その後、福岡市総合交通戦略協議会における協議を経て本取り組みの実施に至りました。

都市再生特別セミナー「福岡における官民連携による稼ぐ公園づくりを考える」

2016年３月15日「福岡における官民連携による稼ぐ公園づくり」をテーマに都市再生特別セミナーを開催しました。

まず、西日本鉄道が取り組む福岡市の中心部明治通り沿いにある水上公園の整備、管理運営事業ついて、同社都市開発事業本部企画開発部係長福見美和氏が概要を報告。水上公園のリニューアル開業に際して、施設整備の考え方や入居するレストランのコンセプトなどについてご紹介いただきました。

続いて「～世界の都市間競争を見据えて～『福岡における官民連携による稼ぐ公園づくりを考える』」をテーマに、元東京都建設局公園緑地部長で現在はWorld Urban Inc.理事の小口健藏氏にご講演いただきました。小口氏は、財政事情から周年事業への予算が一切つかない中、民間を巻き込んで実施運営し大成功を収めた日比谷公園開園100周年事業について説明。この事業を契機として、日比谷公園で「夏の宵ウェディング・パーティー」や「ダンヒルのファッションショー」など様々なイベントが開催されるようになった経緯について報告。小口氏は「公園経営」という視点を取り入れ官民が連携して公園づくりに取り組むことで、人が集い賑わいと魅力に溢れた公園整備が実現できるとともに、民間にとっても事業として収益化を図ることが可能と力説されました。

FDCは、官民連携による公園や公共空間の整備が進むことで都市の魅力が向上するとの考えのもと、これからも都市の成長戦略を推進して行きます。

空き家セミナー～空き家の有効活用にむけて～

都市再生部会では人口が減少し、高齢化が進む中で全国的に解決すべき課題とされている空き家について、行政の取り組みと連携し、課題解決にとどまらず多くの可能性を追求し、福岡都市圏の成長にとって有効な活用方策を検討しています。

そのような中、2017年１月24日にアクロス福岡にて、国土交通省から講師を招き、法制度の動向と全国的な先進事例について説明するとともに、学生団体による空き家への取り組みを紹介する空き家所有者向けセミナーを開催します。

2. プロジェクト

【地方創生】宗像市との連携協定

2015年８月、FDCと宗像市は相互に連携協力

し、宗像市の政策を促進するための協定を締結。これはそれぞれが持つ資源を有効に活用し、地域政策を推進することにより、宗像市の強みを活かした戦略的な地域づくりを実現することを目的としています。①市の政策立案及び推進に関すること、②FDC 会員をはじめとする民間企業等との官民連携事業の組成、同市の人材育成支援および市と FDC 双方の人材交流をテーマとして掲げています。

具体的な取り組みとして、会員企業約 20 社からの事業提案をもとに宗像市とのマッチングを推進した結果、ホテルニューオータニ博多での、「美味しい旬感・福岡 宗像穴子とうきはフルーツ(2016 年 7〜8 月)」の実施などが実現しました。現在も事業化に向けた支援を行っています。

地方創生まちづくりフォーラム「まちてん」への出展

2016 年 12 月 9 日、10 日の 2 日間、東京の渋谷ヒカリエにて地方創生まちづくりフォーラム「まちてん」が開催され、FDC もブース出展しました。

「まちてん」はまちづくりの重要な主体である自治体、企業、大学、ソーシャルビジネス(社会起業家)、メディア、NPO などのオープンイノベーションによって、登壇者・出展者・来場者が出会い、学びあい、地方創生の実現を目指すまちづくりの共創プラットフォームです。持続的なまちづくり・地域づくりを目指し、新しい連携・協業のカタチやアイデアが集まる「まちてん」で、FDC の取り組みを多くの皆さまにお伝えすることができました。

今年は「交流拠点」「ツーリズム」「ファイナンス」「特産品・食・農林業」「芸術・文化・伝統」「居住」などのテーマで、カンファレンスやセッションが行われ、2 日間で約 2,300 名が来場されました。

ソーシャル・インパクト・ボンド(SIB)プロジェクト

FDC 事務局では 2014 年より、福岡都市圏における地方自治体が担う社会政策の実効性向上と公的投資の削減及び地域における新たな投資市場とイノベーションの創出に向けた具体策の一環として「ソーシャル・インパクト・ボンド(SIB)プロジェクト」を推進しています。

本プロジェクトの活動の一環として、SIB を含む社会的投資スキームの上で重要なフレームである「社会的インパクト評価」の普及促進に係る調査に参画し、FDC 原口が、内閣府「社会的インパクト評価の実践による人材育成・組織運営力強化調査」の九州・沖縄ブロックの評価支援者として全三回の実践研修にて、九州地域で社会的インパクト評価に係る人材育成に携わります。FDC 事務局では、今後も福岡都市圏での SIB 導入に向けた検討と実践に取り組みます。

第1回WWAS2016 国際会議「活躍する女性と高齢化する社会」にて、SIBプロジェクトに関するパネル展示を実施

2016 年 6 月 3 日〜5 日 FDC が後援する国際会議「第一回 WWAS2016」が福岡国際会議場で開催されました。本国際会議にて、FDC は 2015 年度経済産業省の事業として実施したソーシャル・インパクト・ボンド(SIB)プロジェクトの取り組みを中心としたパネルの展示を行いました。本会

議には 17 カ国 178 名が参加し、3 日間で合計 350 名が集う会議となりました。

3. コンソーシアム組成支援

九州ツーリストインフォメーションセンター福岡（QTIC）チェックイン事業

QTIC を活用した訪日外国人観光客のホテルチェックイン代行コンソーシアムを発足しました。これは、訪日外国人観光客の福岡市内中心部のホテルチェックインを QTIC にて一括対応するもので、お客様に気軽で便利に福岡での滞在をお楽しみ頂くと同時に各施設様の煩雑な業務を代行します。福岡への入国後はホテルに立ち寄らずに、天神にある QTIC でそのままチェックイン。お客様はそのままツアーや観光や食事を楽しんでいただき、ゆっくりホテルへお戻りいただける、ホテルにもお客様にも喜んでいただけるサービスです。※荷物は福岡空港グローバルカウンターで預けることも可能。

＜参加シティホテル＞ホテルニューオータニ博多、ホテルオークラ福岡、西鉄グランドホテル、西鉄ソラリアホテル、ヒルトンホテルシーホーク

スマートモビリティ推進コンソーシアム

2016 年 7 月 8 日、FDC 会員である福岡市、九州大学が NTT ドコモ、ディー・エヌ・エーとともに九州大学伊都キャンパス内の自動運転バスのサービスインに向けて「スマートモビリティ推進コンソーシアム」を発足しました。

本コンソーシアムは、①公道での自動運転につながる、大規模かつ多様な交通環境を持つ九大伊都キャンパスにて、②交通サービスとしての「もっと安心」「もっと便利」を追求するためにネットワークによる路車間協調、遠隔監視センターや人工知能、ネットワークによる音声対話エージェント、運行管理という技術的なチャレンジを行い、③完全自動走行システム（LV4）と準自動走行システム（LV3）の間である「LV3.5」の早期導入と社会的意義を合わせた新概念にて取り組みます。本コンソーシアムの成果が日本・世界へと訴求されることに大きな期待が寄せられます。

九州ドローンコンソーシアム

2016 年 9 月 30 日、FDC 会員であるトルビズオン、九州通信ネットワーク、西日本高速道路九州支社は、FAS エコエナジー、麻生商事、DJI JAPAN とともに、九州ドローンコンソーシアムを設立しました。

ドローンの有用性や活用法の探索、及び新たな事業モデルの創出等を目的に、実証実験や、ビジネスモデルの検証について、福岡市のグローバル創業・雇用創出特区制度等の活用を視野に検討していきます。

4. 国家戦略特区に関して

福岡市実証実験フルサポート事業

2016 年 8 月より FDC と福岡市は、今後の飛躍的な成長が期待されるスタートアッププロジェクトを全国から募集し、事業拡大に必要な実証実験の実施などを VC（ベンチャーキャピタル）、既存企業とともに、全面的に支援することで、社会

への実装、飛躍的な成長に取り組む「福岡市実証実験フルサポート事業」を開始しました。

防災・減災・健康・医療・福祉をテーマに、独自の技術やアイデアを活用した実証実験プロジェクトを全国から公募し、優秀なプロジェクトについて、福岡市での実証実験を全面的にサポートします。

全国から 44 件の応募があり、2016 年 11 月に開催されたフクオカ・スタートアップセレクション内にて 11 社・チームがピッチを行いました。審査員による審査の結果、優秀賞 5 社・チームと FDC 特別賞 1 社が選定されました。今後、この 6 つの実証実験の実施をサポートします。

Btrax Inc.との連携

2015 年 10 月、FDC はサンフランシスコを拠点とする btrax Inc. とパートナーシップ協定を締結し、コミュニティワークスペース「D.Haus San Francisco」を活用して、福岡市発のスタートアップ・企業のグローバル展開・事業化や、現地サンフランシスコ・シリコンバレーでのオープンイノベーションの促進、福岡市や FDC の「活動、ミッション、ブランド」の米国への情報発信、認知向上を図っています。

本協定をもとに、2016 年 5 月福岡市「スタートアップカフェ」と btrax Inc.「ディーハウス サンフランシスコ」との連携がなされました。この連携により、福岡市スタートアップカフェでサンフランシスコの情報収集や起業相談等が可能となりました。

5. 海外トピックス

海外都市間連携

域外へのワンストップ機能の充実に取り組みました。

①各国政府・都市

・国際ベンチマーク協議会(IRBC)加盟 10 都市(バルセロナ、テジョン、ダブリン、福岡、ヘルシンキ、メルボルン、ミュンヘン、シアトル、ストックホルム、バンクーバ)に加え、ソウル、釜山、シンガポール、バンコク、台北、タリン(エストニア)、サンフランシスコとの窓口を確立

②国際機関等

国連人間居住計画、世界銀行、台湾工業技術研究院(ITRI)

フィンランド・ラハティ市視察団の表敬訪問

2016 年 5 月 9 日、フィン・エアーの福岡ーヘルシンキ直行便就航に伴い、フィンランド・ラハティ市長を含む市の視察団が来福、FDC を表敬訪問されました。

意見交換では、石丸事務局長と視察団のパコーネン市長がそれぞれの思いや取り組みについて

語りました。視察団は、ラハティ市が進める健康予防施策に関連する健康用品やスポーツ器具などウェルネスとウェルビーイングを領域とする企業を中心にメンバー構成されており、それぞれが取り組む活動や製品についてプレゼンテーションが行われました。その際、視察メンバーからは福岡におけるビジネス機会をぜひ持ちたいとの意向も示されました。

国連ハビタットとの包括連携協定

2016 年 9 月 7 日、FDC と国連ハビタット福岡本部（以下、国連ハビタット）は、FDC の産学官民のプラットフォームを活かし、アジア太平洋地域の諸都市の持続的な発展を実現することを目指して包括連携協定を締結しました。

本協定に基づき、FDC と国連ハビタットでは、アジア太平洋地域における諸都市ならびに諸地域の持続的な発展に向けて、FDC 会員の技術やノウハウの活用の可能性や、域外での事業化の可能性などを共同で検討していきます。特に、アジア太平洋地域における都市開発、都市マネジメント、都市サービスの改善、コミュニティ開発、および経済開発などの分野に焦点をあてて検討を進めていきます。

9 月 7 日の調印式ならびに記者会見では、テレビ局や新聞社などメディア関係の方にお越しいただき、両団体の説明、今回の協定についての概要を説明。そして、それぞれの代表から、本協定への期待や展望についてのコメントがありました。国連ハビタットの深澤本部長からは、「アジアの各地域からも福岡に対する関心は高まっている。今回の協定をきっかけに FDC と国連ハビタットでアジアと福岡との連携の可能性の芽を伸ばしていきたい」。そして、FDC の麻生会長からは「個々の会員企業だけでは突破できないところでこのネットワークを活用してもらいたい。さらに福岡発の産業の移出につなげたい」というコメントがありました。

第7回IRBC会議2016inストックホルム・ウプサラ参加報告

2016 年 10 月 12 日～ 14 日の 3 日間、福岡市がメンバー地域として参加する IRBC（International Regions Benchmarking Consortium ／国際地域ベンチマーク協議会）の本会議がスウェーデンのストックホルム市とウプサラ市で開催されました。今回の会議テーマは「UniverCITY Partnerships ／大学都市連携」となり、福岡地域から九州大学、九州産業大学、九州大学共進化社会システム創成拠点、九州先端科学技術研究所（ISIT）、福岡アジア都市研究所（URC）、FDC が参加しました。

10 月 12 日のセッション「INNOVATION ECOSYSTEMS」にて、FDC 豊島が登壇し、FDC から組成した「イノベーションスタジオ福岡」をテ

ーマに産学官連携による起業・創業プロジェクトの取り組みを発表。また、FDC メンバーも世界各国の取り組みを共有するワークショップに参加しました。

カンファレンスでは、ファシリテーター Peter Woodwards 氏の進行によるテーブル毎の会場ディスカッション（総勢約 80 名）も行われ、活発な意見交換が行われました。

UniverCITY Partnerships Conference 2016 Stockholm and Uppsala
The 7th IRBC conference on UniverCITY Partnerships
Photo credits: Per Groth.

Open Innovation 2.0 Conference 2016にてFDCの取り組みが紹介

2016 年 5 月 23、24 日、欧州連合・欧州委員会が主催する国際会議「Open Innovation 2.0 Conference 2016」の「Open engagement platforms as value enabler」のセッションにおいて、カタリン・ガリアス氏（Civic Tech Amsterdam CEO）から、先進的なイノベーションエコシステムを持つ都市の参考機関として福岡市および FDC の取り組みが紹介されました。

「Open　Innovation 2.0 Conference 2016」は、欧州連合・欧州委員会が主催する、オープンイノベーションをめぐる、都市、ビッグデータ・IoT などのデジタル化、アントレプレナーシップなどを議論する会議です。世界中から 350 名以上の専門家が参加し、議論を行いました。

2016 年 3 月より、世界銀行は産学官民様々なバックグラウンドを持つ人々がユニークなコラボレーションを生み出すような特徴的なオープンイノベーションの取り組みを紹介するため、先進的なイノベーションエコシステムを持つ都市として福岡市を含む 14 都市を選定し、FDC は福岡市のエコシステムのキーファクターとして選ばれました。カタリン氏は、そのインタビュアーとして本の出版に関わっており、その経緯から、本会議での取り組み紹介に繋がりました。

アジア都市ジャーナリスト会議

アジア太平洋地域における持続可能な都市開発の実現や都市連携の促進を図る中で、メディアの役割を考える「アジアジャーナリスト会議」（主催：国連ハビタット福岡本部、共催：西日本新聞社）が 2016 年 9 月 28 日、アクロス福岡にて開催されました。

今回で 11 回目を迎える当会議は「持続可能な都市開発・都市再生」に焦点を当て、福岡都市圏の取り組みを参考事例としながら、人口減少、高齢化社会、低成長時代の都市開発のあり方を探るものとなりました。

このプログラムに関連し FDC 榎本から、海外記者向けに FDC がこれまで取り組んできた「産官学民が連携した都市づくり」について説明を行い、海外記者からも質問があがりました。

6.FDC サロン

第一回FDCサロン「女性交流会」

2016 年 6 月 9 日に「女性の視点とまちづくり」をテーマに、女性社員限定の交流会を開催しました。会員の西日本鉄道（ブランド委員会レディス PJ）の皆様より、博多湾レストランシップ「マリエラ」でのクルーズパーティを会場として提供いただき、27 団体 51 名という大変多くの方にご参加

いただきました。

前半はFDCの西田よりFDCについて説明。女性の活躍や働き方のみに焦点をあてるのではなく、企業の事業戦略やまちづくりの現場でも従来とは異なる視点がより一層必要とされており、この交流会を女性限定で開催した経緯が説明されました。

後半は会員の皆様からのミニプレゼンコーナーを設け、新規事業紹介や女性プロジェクト、女性に対するサービスなどの紹介、アイディア募集、PRなど活発な交流時間となりました。

第二回FDCサロン「海外視察報告会」

2016年7月28日は「海外視察報告」を、FDCが設立支援を行った「九州ツーリストインフォメーションセンター福岡(QTIC)」にて開催しました。

まず、FDC徳永から、5月にオランダのアムステルダムで開催された欧州連合・欧州委員会主催の国際会議「Open Innovation 2.0 Conference」について報告。次に原口より、2016年4月より3週間参加したアメリカ国務省主催のインターナショナル・ビジター・リーダーシップ・プログラム(IVLP)の報告として、「The Value of diversity and inclusion」をテーマに発表をしました。米国における、「ダイバーシティ(多様性)は

価値」という強いメッセージによる様々な取り組みの紹介、オープンイノベーションにも見えないインフラ＝多様性の受容やアントレプレナーシップなどが重要であると説明しました。後半は様々な業種や職種の皆様との多様性のある交流となりました。

第三回FDCサロン「国連ハビタットとの連携報告」

2016年11月21日に「国連ハビタットとの連携報告」を開催しました。まずFDCの榎本から、今回の締結の経緯や今後FDC会員の技術やノウハウの活用、域外での事業化の可能性などを説明しました。続いて、後藤より国連ハビタット福岡主催の第11回アジア都市ジャーナリスト会議について報告しました。後半は、会員の皆様とこの協定を活かしてどのような連携ができるか等の意見交換の時間となりました。

第四回FDCサロン 「都市の経済振興と文化創出 これからの福岡文化とは？」

2016年12月12日に「都市の経済振興と文化創出　これからの福岡文化とは？」を開催しました。まず、野村総合研究所で地域計画研究部長、主席研究員を歴任され、コラボ・ケイ代表で、NRI海外拠点技術顧問の草野恵一氏より「都市と文化」について話題提供をいただきました。

後半はパネリストに、福岡アジア都市研究所（URC）調整係長、FDC キュレーターでもある中島賢一氏、ラブエフエム国際放送の三好剛平氏、そしてモデレーターに Local Knowledge Platform 代表社員、URC フェローの天野宏欣氏を迎え、パネルディスカッションを行いました。交流会では「福岡のイメージとは？」「都市に産業を生ませる文化とは？」などのテーマを中心に会員の皆様と有意義なディスカッションの時間となりました。

7. 協力・後援事業

FUKUOKA DUTY FREE TENJIN

2016 年 4 月 1 日、西日本、九州地域で初となる空港型市中免税店「FUKUOKA DUTY FREE TENJIN」が、福岡三越 9 階に開店しました。

「FUKUOKA DUTY FREE TENJIN」は購入した品物を福岡空港で出国手続きを済ませた後に受け取る仕組みで、一般的な免税店とは異なり、消費税だけでなく酒税、たばこ税、関税も免除されます。福岡空港から出国する予定がある人は、外国人に限らず日本人でも出発日の 30 日前から免税品を購入することが可能です。（※パスポートと航空券などの提示が必要）

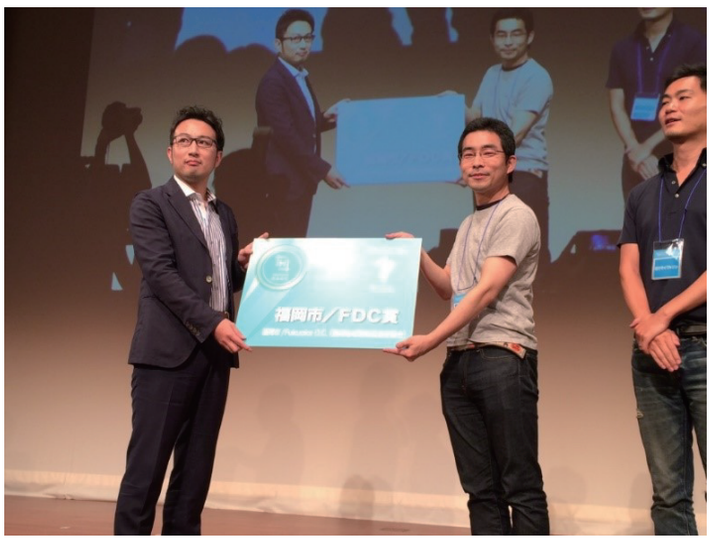
約 1300 ㎡の売り場には化粧品、ファッションアイテム、時計、バッグ、家電、酒、など約２万点の品揃えを誇り、急増する訪日外国人旅行客の消費取り込みにつながることに大きな期待が寄せられています。

FDC では、本事業を天神のインバウンド受入拠点化に向けた取り組みと位置づけ、「FUKUOKA DUTY FREE TENJIN」へ共同出資した福岡空港ビルディング、西日本鉄道、三越伊勢丹ホールディングスの３社に対して事業化支援を実施し、この度の開店へとつながりました。インバウンド拠点化に向けた取り組みは、2014 年に設立された MICE 誘致のワンストップ組織である「Meeting Place Fukuoka」に続く第２弾となるものであり、都心の集客機能がいっそう高まるとともに、コンテンツの充実により都市の魅力が増すことで、受け入れ拠点化に向けた動きが一層加速していくことが見込まれます。

INNOVATE HUB KYUSHU（イノベート・ハブ九州）

九州の魅力的な「ビジネスのもと」を組み合わせ、人工知能のような先進テクノロジー、そして IT を活用することにより、九州発のイノベーションを起こすことを目的に、ハッカソンを起点とするイノベーション創出プログラム「イノベート・ハブ九州」（主催：日本 IBM、協力：FDC 他）が開催されました。

2016年9月6日にＪＲ九州ホールにてファイナリストによるプレゼンテーション及び、表彰式が行われ、その表彰式で石丸事務局長が「福岡市/FDC賞」のプレゼンテーターとして登壇。ボウサイワトソンが「福岡市/FDC賞」を受賞しました。



美味しい、安心、ストーリーがある 五感で楽しむ九州産フード

2016年11月21日、九州経済調査協会主催、FDCが協力する「美味しい、安心、ストーリーがある 五感で楽しむ九州産フード」が電気ビル共創館で開催されました。

今回は農業に参入した地場企業の想いを地域の方に伝え、各商品の知名度向上や販売につながる機会をつくることが目的。地場企業から九州旅客鉄道・JR九州ファーム、九電工、西部ガス・エスジーグリーンハウス、西日本鉄道が参加し、各社商品の説明を行いました。

地場企業が一堂に集まり6次産業への取り組みを紹介する機会は今回が初。講演終了後には試食兼交流会も開催されました。

九州の未来力2030～地域金融ワークショップ

2016年9月21日、財務省福岡財務支局、日本政策投資銀行九州支店、FDCの3者が事務局となり、「九州の未来力2030～地域金融ワークショップ」の第一回会合を開催しました。

このワークショップは、金融機関（地銀、信金、政府系金融機関）、経済団体、民間企業から将来を担う中堅世代を迎え、「地域金融の場で、今何が起こっているのか、今後どう変化するのか」「変化の中で地域金融が直面する課題は」「変化に対応し、地域とともに発展していくには」等について、自由に議論するものです。

第一回講義で、FDC石丸事務局長より「地域経済の発展に向けたFDCの取り組みについて」話題提供を行いました。少子高齢化、人口減少、東京一極集中による地方経済の衰退、IoT・AI等技術の急速な発展など、社会情勢が刻々と変化する近年、地域を活性化するために、地域経済にとって重要な役割を担う「金融」も、今後これらの変化に対応していくことが求められます。

ワークショップは5回の開催を予定しており、

最終的に「今後必要とされる金融機能とは何か」をテーマにグループ毎に発表をまとめる予定です。FDC も本ワークショップを通して、国や地域金融関係者と連携し、地域に必要とされる「金融」の未来像策定への取り組みを進めていきます。

FUKUOKA　NEXT都市革新フォーラム

2016 年 11 月 11 日、アジアのリーダー都市を体現化する「FUKUOKA Smart EAST」のキックオフとして、FUKUOKA NEXT 都市革新フォーラムが開催されました。

フォーラムでは、世界経済フォーラムの「トップ 10 の都市革新」などの事例を参考に、箱崎・福岡で実現する世界最先端の都市革新とライフスタイルについて、全体セッションやハーバード大学の学生からの提案、各重点テーマについて分科会などを通じて議論しました。FDCも FUKUOKA NEXT 箱崎まちづくりシンポジウム実行委員会の一員として、企画段階から関わりました。

一般社団法人Future Centere Alliance Japan（FCAJ）

2016 年 5 月 16 日に設立された一般社団法人 Future Centere Alliance Japan（FCAJ）の理事に、FDC 石丸事務局長が就任しました。FCAJ は企業や官庁、自治体、大学、NPO 等がイノベーションを創出・加速するための「場」、フューチャーセンター、イノベーションセンター、リビングラボ等のイノベーション加速支援環境の構築と活用に資するアライアンス組織として、これらに関わるイノベーションの方法論の研究と普及、実践の推進を目的とします。

2016 年 7 月に初めて福岡にて、FDC が事務局としてワークショップを開催。7 月 5 日はアイランドシティアーバンデザインセンターで、社会実験都市福岡～都市内のイノベーション拠点としての Living Lab ～をテーマに、翌 6 日は博多の食と文化の博物館ハクハクで、「食」などの強みをいかす福岡らしい価値の創造～地域のネットワーク型価値創造～についてワークショップを開催し、東京や大阪の FCAJ メンバーと FDC 会員の相互交流の場ととなりました。

8. 事務局トピックス

【登壇情報】第1回福岡アジア都市研究所「ナレッジコミュニティ」に登壇

2016 年 4 月 27 日に福岡アジア都市研究所がまちづくりに関する情報の提供、知識の伝達、関心を持つ市民の方々の交流を目的としたイベント「ナレッジコミュニティ」を開催。その記念すべき第 1 回目のナレッジコミュニティのテーマとして「FDC の取り組みご紹介」を FDC 豊島が発表しました。

【登壇情報】2016年度第1回都市セミナー「グローバルに成長し続ける都市『福岡』 に登壇

2016 年 7 月 14 日に、福岡アジア都市研究所が 2016 年度第 1 回都市セミナーを開催。FDC 清崎が「東アジアのビジネスハブを目指して～ＦＤＣの取り組みについて～」を発表しました。

【登壇情報】宮崎経済同友会・宮崎県経営者協会にて講演登壇

2016 年 8 月 26 日に FDC 西田が、宮崎経済同友会・宮崎県経営者協会において「経営戦略におけるダイバーシティ推進の重要性」をテーマに講演、約 100 名の方にご参加いただきました。本講演では、女性を始めとする多様な人材の活用を、個々人の尊重や働き方の整備に留めず、ダイバーシティ＆インクルージョンの力を新規事業やイノベーション創発の源泉とし、企業の経営戦略と

することの重要性を説明しました。また多様な人材の交流を土台に、産学官民で構成する事業創出プラットフォームとしてのFDCの概要や、今後の宮崎地域も含めた広域連携の可能性などを合わせて説明しました。

【登壇情報】国際会議「福岡国際女性シンポジウム」に登壇

2016年9月17日にFDCも後援する国際会議「福岡国際女性シンポジウム」が開催されました。今年で第3回目となるシンポジウムでは、「ウーマノミクス」の提唱者・キャシー松井氏の基調講演に続き、ラウンドテーブルでは各登壇者が「経済」「学生」の2テーブルに分かれて討論しました。「経済」テーブルの総括をFDC西田が担当しました。

【人材育成】三井住友銀行と協働し、インターンシップ生向けプログラム実施

三井住友銀行は「九州インターンシップ推進協議会」と連携し、2016年8月22～26日にインターンシップ生2名受入れ、その中でメガバンクの地方創生支援（九州法人ソリューションセンター）の業務理解を深めることを目的にFDCと協働したプログラムも実施しました。

三井住友銀行九州法人ソリューションセンター長からFDCとの連携の意義やそこにおけるメガバンクの役割などを説明されました。

また課題解決型インターンシップとして観光振興の観点から「福岡の魅力を考えよう！」をテーマにインバウンド向けツアー企画のワークショップを行いました。福岡の観光資源を見直すことができ、また観光振興によってどのような産業が活性化し、銀行が担う役割が増えるかも合わせてディスカッションを行いました。

【人材育成】九州大学よりインターン生を受入れ

2016年9月～12月FDC事務局とイノベーションスタジオ福岡で、九州大学芸術工学部から2名（環境設計学科3年生、デザインストラテジー専攻修士1年生）の学生インターンシップを受け入れました。

イノベーションスタジオ福岡やフードエキスポ九州等のイベント、部会の開催の事前準備や当日運営のサポート、また学生視点での気づきなどの共有を行いました。

9. メディア紹介・事務局長登壇実績

メディア紹介

（2016/5/27 日刊工業新聞）日本ＩＢＭ、九州の産学官連携推進－イノベーション創出支援
（2016/5/19 西日本新聞 朝刊）英語実践講座開講
（2016/6/29 朝日新聞 朝刊） 英語で街歩きエンジョイ、参拝やマナー学ぶ 福岡・警固神社
（2016/6/6 日本情報産業新聞 ）特性活かすＩＴ事業に、イノベート・ハブ九州開始、日本IBMなどイノベート・ハブ九州にFDCが参加
（2016/6/26 朝日新聞 朝刊）英語で町歩きエンジョイ
（2016/7/9 佐賀新聞 ）九大で自動運転バス実験 18年度には構内実用化
（2016/7/12 宮崎日日新聞朝刊）九大　自動運転バス実験　18年度にも構内で実用化
（2016/9/8 西日本新聞 朝刊） ハビタットと連携協定 福岡地域戦略推進協アジアの都市問題解決へ
（2016/9/8 読売新聞 朝刊）アジアのまちづくり支援 FDCとハビタット福岡本部 連携協定
（2016/9/15 日本経済新聞 朝刊）福岡地域戦略推進協議会　国連機関と連携　都市開発で

(2016/9/17 西日本新聞 朝刊)九大跡地『スマートシティ』先端技術で暮らしサポート
(2016/10/29 静岡新聞 朝刊)地方創生 条件探る 中部未来懇 活性へ知恵と実行力－静岡でシンポ
(2016/10/29 静岡新聞 朝刊)広域連携で産業創出 起業テーマに議論－中部未来懇
(2016/11/12 西日本新聞 朝刊)九大箱崎地区跡地「次世代の街」探る 福岡市で都市革新フォーラム 400 人が参加 意見を交換
(2016/11/12 読売新聞 朝刊)九大箱崎跡の活要考える 成長や課題 都市革新フォーラム

事務局長石丸登壇実績

第9回京都流議定書

2016 年 7 月 24 日、第 9 回京都流議定書 2016 のセッション「産学官民連携によってイノベーションが生まれる都市のデザイン」のセッションに石丸事務局長が登壇しました。

「SHARING CITY FUKUOKA 2016」オープニングトーク

2016 年 9 月 19 日、シェアリングエコノミー協会は、福岡の商業施設ソラリアプラザと併設する警固公園にて、“アクティブな街づくり”に行政が積極的に取り組む福岡市をモデルシティとし、これからの街づくりにおける“SHARE”の可能性を探る自由参加型フォーラムフェス「SHARING CITY FUKUOKA 2016」を開催。そのオープニングトークとして、「福岡市はシェアでこう変わる」と題し、FDC 石丸事務局長が登壇しました。

静岡県「中部未来懇話会」

2016 年 10 月 28 日、静岡県中部地区の将来構想を提言する「中部未来懇話会」が開催する 2016 年度秋季シンポジウムにて、「地方創生の条件」をテーマに石丸事務局長が基調講演を行いました。成長戦略の策定から推進まで一貫して行っていることなどを紹介しました。

明星和楽

2016 年 11 月 12 日に開催された、テクノロジーとクリエイティブに関わる人々が集まったイベント「明星和楽」のトークセッション「シン・フクオカ～新たな福岡の文化づくり・都市づくり～」に石丸事務局長が登壇しました。

九州大学公開講座「クリエイティブ産業と法

九州大学法学部では、日本音楽著作権協会(JASRAC)の寄附科目として、「クリエイティブ産業と法」の公開講座(無料)を箱崎キャンパスで開講。2016 年 12 月 4 日に、FDC 石丸事務局長が「クリエイティブ産業における特区制度の役割」というテーマで登壇しました。

グローバル・シチズン・ベーシックⅢ(GCB3)

2017 年 1 月 14 日、麻生専門学校グループのカリキュラムである「グローバル・シチズン・ベーシックⅢ(GCB3)」に石丸事務局長が講師として登壇し、学生約 30 名に向けて当協議会の活動と福岡都市圏の今後の展望などを話しました。

10. 視察受け入れ一覧

内閣府共助社会づくり推進担当

2016 年 8 月に、NPO や社会的企業の成果を可視化する社会的インパクトを評価に関する業務を担当する、内閣府共助社会づくり推進担当より

取り組みについてのインタビューを受けました。

横浜市議会市民・文化観光・消防委員会

2016年10月に、横浜市議会で同市のMICE施策について審議をしている市民・文化観光・消防委員会の方々合計16名が、MICE戦略・地域戦略の実行施策についての意見交換のために訪問されました。

日本能率協会イノベーションコース

2016年10月に、日本能率協会イノベーションコースの卒業生約10名が視察に来訪されました。

札幌市まちづくり政策局 都心まちづくり推進室 都心まちづくり課

2016年11月に、札幌市の都心まちづくり指針「第2次都心まちづくり計画」の策定を担当する札幌市役所まちづくり政策局 都心まちづくり推進室より、都心の一体的なマネジメントの推進を図る官民連携のマネジメント体制構築のため、当協議会の活動についてインタビューを受けました。

大阪府商工労働部

2016年11月に、大阪産業経済リサーチセンターより、主に地域経済や中小企業振興を目的とした政策立案や、地域におけるイノベーションの促進のための効果的なシステムの構築の参考のためにインタビューを受けました。

サイバー適塾

2017年1月、関西経済界が英知を集結し「実学重視」の人材育成や「強力な人脈形成」を推進する新しい教育の場である「サイバー適塾」より、民主導での関西の活性化の活動の参考としてのインタビューを受けました。

編集後記

1年間を振返り、多くのFDC会員の皆様が関わり、各部会や分科会の開催、そして様々なプロジェクトやコンソーシアムが進んだことを改めて実感しました。産官学民で連携し熱く議論を重ね、一緒にThinkからDoへと取り組むことができ、事務局として大変嬉しく感じております。最後に事務局長の2017年年頭所感により結びといたします。今後も引き続きどうぞ宜しくお願い申し上げます。

福岡地域戦略推進協議会マーケティングチーム
西田・後藤・原口

事務局長年頭所感より

2017 年を「加速化」の年に

2017 年の年頭にあたり、謹んでご挨拶申し上げます。昨年は福岡地域戦略推進協議会（FDC）の活動に対し、ご理解と格別のご支援を賜り厚く御礼を申し上げます。

昨年は誰もが容易に想像し得ないビックニュースが世界中を駆け巡りました。その中でも、英国の欧州連合（EU）離脱、米国大統領選挙でトランプ氏の勝利は、今後の世界の不透明感を象徴する出来事でした。既に世界の金融・資本市場に大きな影響を与えていますが、世界経済の減速、格差の拡大と相まって、世界各国、各界のリーダーたちは難しい舵取りが求められています。

また、熊本地震を忘れるわけには行きません。二度にわたる大きな揺れは被災地に甚大な被害をもたらし、未だ多くの方がその影響から脱することができていません。FDC もいち早く支援に乗り出した福岡市に寄り添い、迅速な情報提供に努めましたが、広域連携、官民連携による大震災への対応については、大きな課題を突きつけられました。

今我々の生きている世界は、刻一刻と変化を続けています。現在や過去をベースに容易に想像のできる未来は存在せず、日々世界のどこかでイノベーションが起こり、新たに生み出される製品やサービスが世界の常識や生活そのものを劇的に変えていきます。これらのイノベーションは、大震災を始めとする災害への対応や様々な社会課題の解決にも資するものでもあります。今後の予測できない未来に対応し、現在の政策課題に対応していくためには、常に新しいイノベーションをキャッチアップし、それを受け入れ社会に実装していくことができる施策立案と実施が求められます。

FDC は、2011 年の設立から今年で 6 年が経ちます。2017 年からは、これまで掲げてきた「2020 年に GRP＋2.8 兆円、雇用＋6 万人、人口＋7 万人」という KPI を達成し、「東アジアのビジネスハブ」となるための総仕上げの 3 か年をスタートさせます。「事業化支援」、「広域展開」、「地域のグローバル化」を 3 本の柱とし、産学官民の強みを活かして最先端の技術開発やビジネスモデルを次々と生み出して行くとともに、社会実装につなげていきます。

実行するための抜本的な組織改革にも既に着手しています。これまでの基幹事業であった部会の改廃を行い、個別プロジェクトや事業コンソーシアム組成を中心とした運用体制の構築（Think→Do への移行）を行います。また、新たな取り組みを柔軟に行うことができるよう事務局の充実を図るとともに、協議会会員の事業化支援を強化するべく新規事業創出促進を行うための機能を新たに位置づけます。この機能を活用し、スタートアップインキュベーションとビジネスディベロップメントを連携させたオープンイノベーション機能を新たに設置することで、他の地域にはない FDC の強みを最大限に活かした地域活性化及び地域産業形成を行って参ります。

2017 年は「加速化」の年と位置付け、新たな「価値」を可視化して皆様にお届けするため、職員一同精一杯の努力を行ってまいります。一層のご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2017 年元旦

福岡地域戦略推進協議会 事務局長　石丸修平

年末恒例の合宿に参加する福岡地域戦略推進協議会 事務局スタッフ

【本ニュースレターに関するお問い合わせ】福岡地域戦略推進協議会　担当：西田・後藤・原口
〒810-0001 福岡市中央区天神 1-10-1 市役所北別館 6 階（公益財団法人福岡アジア都市研究所内）
Tel：092-733-5682 Fax：092-733-5680 www.fukuoka-dc.jpn.com